



Peace Seeds ヒロシマの10代がまく種

私たちジュニアライターは、被爆者から体験を聞いて新聞やウェブサイトに載せたり、平和に関するテーマでさまざまな人に取材して記事にしたりしています。今回は、私たちと同じように、戦争体験を知り、学び、平和の大切さを発信し続けている同世代を取り上げました。

取材した中高生は、最初から戦争や平和について関心があった人ばかりではありません。活動や学習を通して、戦争の悲惨さや不条理を感知し、周りの人にも知って考えてほしい、と思うようになったといえます。上級生から下級生へと、戦争について話すのが当たり前の雰囲気も引き継がれています。皆さんも、住んでいる地域にある戦争の記憶を知るところから始めてみませんか。戦争って何なのか。具体的に考えるきっかけになるはずです。



インターネットのテレビ電話を通して沖縄尚学高の取材をするジュニアライター

△ヒース・シース△
平和や命の大切さをいろんな視点から捉え、広げていく「種」が「ヒース・シース」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるため、小学6年から高校2年までの45人が、自らテーマを考え、取材し、執筆しています。

第19号 戦争記憶を受け継ぐ10代

平和な未来築くのは私たち

当事者取材 体験に迫る

旭川工業高放送局 (北海道旭川市)

実際にこの地で起きた事件を知ってほしい



生活画像事件の証言者◎に取材する放送局員 (北海道新聞提供)

旭川師範(はん)学校(現北海道教育大旭川校)の美術部で、現実の生活を題材に絵を描いていただけにもかかわらず、共産主義思想を持っていたとして、当時の治安維持(いじ)法違反(いはん)容疑で学生や卒業生たち26人が逮捕(たいほ)され、18人が起訴された。

毎年、戦争をテーマにした作品を作っています。「高校生平和祈念ビデオ制作コンクール」に作品を出すと、2007年度から始め、これまでに20本近く手掛けています。この日は2本制作。ラジオドキュメント「平和を願い続ける70年」は、NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会で制作奨励賞を受けました。映像作品「伝える、伝わる」生活画像事件の証言(16)は「北海道映像コンテスト2015」で学生部門の最優秀賞に輝きました。「平和」は、海軍航空隊で霧戦に乗っていた男性(88)の戦争体験に迫った作品。「戦争は嫌だ」という彼の言葉を軸に、70年間持ち続けていた「生き残った罪悪感」を表現しました。監督の3年錦川星矢君(18)は「特に同世代

白梅学徒の足跡ガイド

同世代の少女たち 自分だったらどうしただろう



白梅学徒隊が動員された「山第一野戦病院・本部壕」前で、1年部員を前にガイドする2年部員 (沖縄尚学高提供)

沖縄戦での白梅学徒隊の歴史は自分たちが受け継ぐとする「後輩宣言」を2004年に発表。後世に伝える活動を始めました。学徒が在籍した県立第二高等女学校は廃校となり、後継者がいなかったため、部内のガイドテストに合格した2年生が、白梅学徒隊の足跡をたどるフィールドワークを実施。看護教育を受けた学校や病院となった壕を案内しています。ガイドは現在10人。県外の高校生や、部の1年生を案内しています。2年長浜(はな)先生(17)は「白梅学徒隊は私たちと同世代。自分だったら...と置き換えて考えるようになりました。学徒隊の存在自体を知らなかつた2年城間(しろま)美佑(みゆ)さん(16)は二度と戦争しようと思わない」。活動を通じ、平和への関心が高まります。一方で「体験してないからうまく伝えられない」との悩みもあります。当時の詳しい状況や思いを体験者に直接尋ね、ガイドに生かしています。

沖縄尚学高地域研究部 (那覇市)

△白梅学徒隊△沖縄県立第一高等女学校の4年生56人が1945年3月6日から看護教育を受け、うち46人(10人は体調不良などで除隊)が「従軍補助看護婦」として動員された。野戦病院になった壕(ごう)で、負傷兵の排泄物の世話をし、傷口にわくじの除去、使用済み包帯の洗濯(せんたく)などを行った。6月4日、解散命令を受け、戦闘(せんとう)の最前線(せんせん)をさまよひ、22人が亡くなった。

空襲や復興 舞台に再現

長岡市立南中 (新潟県長岡市)

再び焼け野原にしては いけないんだ



平和学習した内容を基に新聞を作る生徒 (長岡市立南中提供)

△長岡空襲△1945年8月1日午後10時半から約1時間40分、太平洋のテニアン島から飛来したB29爆撃機(はくげきき)機125機によって16万3千発を超える焼夷弾(しょうえいだん)が新潟県長岡市に落とされた。市街地の約8割が焼失。約1480人が犠牲(ぎせい)になった。この12日(12)の7月20日には、長岡の原爆(げんばく)とほぼ同じ形、大きな「模擬(もぎ)原爆」が落ちて、4人が死亡した。

2年生が、長岡空襲や戦争に関する平和劇を市立劇場や学校の体育館で上演しています。市内にある長岡戦争資料館からの「伝える活動をしてほしい」という呼び掛けに応じて2010年度から始めました。総合的な学習の時間を使い、1年間かけて平和学習をします。長岡空襲の体験者から話を聞き、灯籠(とうろう)流しや市の平和フォーラムに参加して学びます。壁新聞も作ります。集大成の劇の上演前には、ポスターを作って貼ったり、地元ラジオ放送で宣伝したり。多くの人の見ってもらおう工夫をします。来年2月には広島に2泊3日の修学旅行に来る予定です。2年上村(かみむら)桃子(ももこ)さん(14)は「長岡と広島の違いを6森(むくもり)本(もと)松(まつ)衣(え)」